

三重県議会の議会改革にかかる各種調査の結果概要(三重県議会の現状と課題)

■□ 県民 □■

県議会の役割はあまり知られていない
「県議会の役割を知っているか」

ほとんど知らなかった 38.7%
知っている 16.1%
少し知っていた 45.2%

県議会への関心が低い「県議会への関心」

ほとんどない 13%
大いにある 10%
あまりない 35%
少しある 42%

県議会に民意が反映されていない

わかない 26.1%
思う 0.2%
やや思う 20.4%
思わない 53.2%

議会改革への評価は過半数が肯定的

わからない 21.9%
大いに評価する 2.6%
まったく評価しない 3.1%
ある程度評価する 48.9%
あまり評価しない 23.5%

開かれた議会運営を求める意向
「今後の議会改革の方向性」

情報提供の充実 22.1%
意見交換の場 22.7%
議会会議への参加 23.7%
政策決定、監視・評価 12.6%
政策提言・立案 9.4%
交流・連携 9.4%

意識の相違

議員活動に対する厳しい目(資質向上、全体利益の視点、民意反映)を求める意見が多い *自由意見回答

県議会の取組(議会改革)が認知不足で分かりやすい広報を求める意見も多い

■□ 県議会 □■

議会には既に十分開かれているとの認識
*議会への住民参加は効果がある 85.7%

一方
○県(議会)は遠い存在
○議会の役割も知られていないとする意見も多い

住民は身近な市町には関心がある
との認識があるものの
市町議会との連携の評価は比較的低い
その理由は、
県(議会)への陳情・要望の場になってしまう

議会改革に対する評価は全体的に高い
平均 78.1% その中で比較的低い項目は
議会改革の個別取組評価(下位3項目)
「効果がある」「ある程度効果がある」の計

議員間討議	53.0%
市町議会との交流・連携	59.2%
会期等の見直し	63.3%
全項目の平均	78.1%

会期等の見直し
＜効果あり＞議論の場の充実(参考人、公聴会)専決処分への対応、議会独自の議会招集
＜効果なし＞会議が多くて多忙(議員活動に制約)メリハリがない、議員間討議は充実していない等

議員間討議
＜充実＞テーマ設定した政策討論会議、意見書や請願など
＜不十分＞討議に不慣れ、論点が不明確、委員会では不十分、会派の制約あり、時間的余裕がない

開かれた議会を進めていくため
地域ごとの「**県議会報告会**」
一般県民向けの「**出前講座**」など
住民と直接対話できる機会や
県議会だよりの改善、マスコミやインターネットの活用など情報発信の工夫が必要

市町との連携は今後もあまり重視されない
*今後の方向性で交流連携は 12.2%しかない
もし、交流・連携するのなら
○研修会の共同開催
○二元代表性の意義を広める

政策の監視・評価への意向が高い
「今後の議会改革の方向性」

無回答 8%
開かれた議会 8%
交流・連携 12%
政策提言・立案 20%
政策決定、監視・評価 52%

会期等の検証・検討は
○県民の意向を踏まえ ○執行機関への影響を考慮し
○通年制の可能性も含め
○会議全体の工程管理(メリハリ)等を踏まえる
議員間討議の充実に向けては…今後の検討課題

議会活性化の条件整備への意向
○議員報酬や政務調査費の見直し
○議会事務局の強化 ○議員秘書の配置

方向性の一致

■□ 執行機関職員 □■

市町議会との交流に対する評価

執行機関と議会が共に、県と市町が連携できるような仕組みを作る 25.7%
県議会でも独自の仕組みを作るべき 16.8%
市町との交流は執行機関に任せればよい 18.0%
県議会と市町の執行機関とは距離を置くべき 32.5%
その他 7.0%

会期の見直しにかかる現状認識

計	現在担当	以前担当	経験なし
3.5%	37.0%	8.0%	4.9%
28.1%	21.9%	13.0%	21.1%
9.5%	29.0%	44.0%	19.3%
11.7%	16.6%	15.2%	31.1%
4.8%	6.8%	6.0%	2.8%

※「担当」＝議会関係業務に携わっている者を示す

監視機能に対する評価

【評価の主な理由】
○本会議や委員会での議論が活発
○議会の存在自体が重要で常に意識
△評価の質、内容に課題
△議員の資質(個人差)に課題
△地元や支援団体への利益誘導

ほとんど果たしていない 4.8%
かなり果たしている 9.0%
ある程度果たしている 51.8%
ほとんど果たしていない 22.7%
あまり果たしていない 11.7%

議会の役割を再検討する必要がある
○監視・評価に専念すべきではないか
○議会の決定責任について検討が必要
○費用対効果の観点からも検討がいる
○開かれた議会のさらなる取組をすべき

開かれた議会に対する評価

【評価の主な理由】
○当然のこと 222件
○不十分 67件(形式的、成果不明)
○特定利益者の意見に偏り 54件
○積極的な姿勢は評価できる 79件

ほとんど評価できない 5.2%
大いに評価できる 8.2%
ある程度評価できる 47.6%
分らない 30.4%
あまり評価できない 8.6%



■□ 県民 □■

県議会の役割はあまり知られていない
 県議会への関心が低い
 県議会に民意が反映されていない

開かれた議会運営を求める意向

■□ 県議会 □■

県議会は既に十分開かれている
 市町議会との交流・連携について課題認識
 議員間討議の充実 (関連) 会期の見直し

県議会報告会
 一般出前講座
 など

県議会と市町議会との交流・連携
 を通じた

○住民ニーズの把握
 ○地域課題の共有等 により

監視・評価、政策議論の充実
 へもつなげていく

会議の開催だけでなく、議会活動
 全体のバランスとメリハリが必要

政策決定、監視・評価(52%)、次いで政策立案(20%)への意向が強い

■□ 執行機関職員 □■

議会の役割を再検討する必要がある
 ○監視・評価に専念すべき
 ○議決責任についての検討を
 ○開かれた議会のさらなる取組をすべき
 県議会の監視機能に対する評価は高い

会期の見直しは趣旨を理解しつつも負担感あり
 ○議会担当者ほど影響大

市町議会との交流にかかる意見はさまざま
 ○議会独自のしくみ、執行機関も含めたしくみ等

■□ NPO、大学、シンクタンク □■

県議会の議会改革についての評価

1 開かれた議会について
 ○県民には県議会の役割が理解されておらず、関心もない
 ○県民との意見交換など双方向の機会がない

2 戦略計画の議決対象化について
 ○県議会による計画の決定を懸念
 ○県民意見の十分な反映を求める

3 県議会議員について
 ○特定地域や団体等の利益代表となっている
 ○県民の意見をもっと聞いてほしい
 ○さらなる資質向上を求める

県議会の政策立案についての意見

1 これまでの県議会との連携
 ○連携するという視点が双方になかった
 ○執行機関や市町議会との連携はある

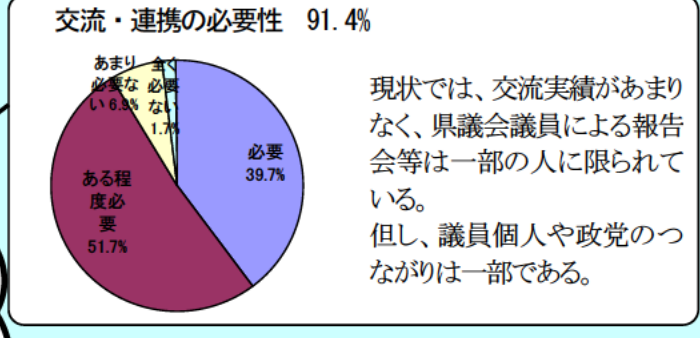
2 今後の具体的な連携方策について
 ○勉強会の開催
 ○特定テーマで専門性を生かした議論への参加
 ○民意把握や事例収集、調査等の支援
 ※政務調査費を勉強会や調査委員会などに活用を

3 県議会と連携する際の課題
 ○特定の議員や政党との関わりは敬遠する傾向
 ○議会全体で連携の受け皿を
 ○ボランティアでの関わりには限界あり

その他 ○NPOを推進する根拠条例の必要性 ○NPOに対する県議会議員の関心の低さ

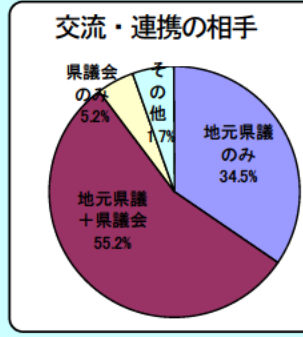
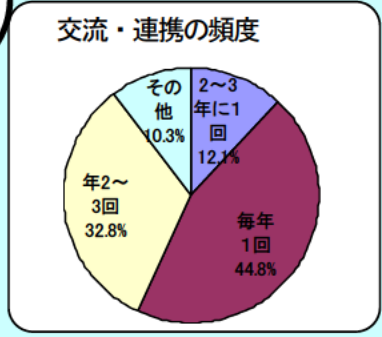
■□ 市町議会 □■

日常的に住民と接している市町議会は、住民ニーズや地域課題を把握しているとの認識



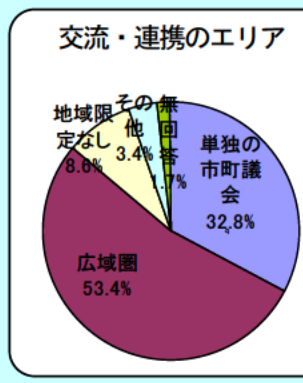
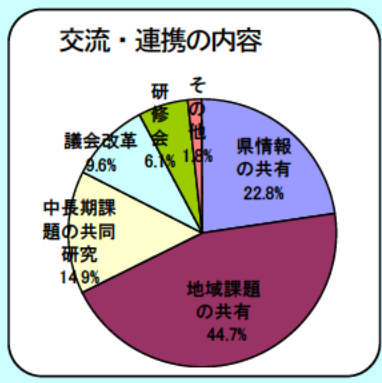
【取組例】

- 全議員による議会報告会 (伊賀市) 38地区、議員4~5名×6班 市民との情報共有、意見交換など
- 会派や議員有志による議会報告会等 (名張市、尾鷲市、南伊勢町など)



【理由】

- 政党・会派による交流だと、参加できる議員に制約がある。
- 地元議員だけだと議員個人の対応となり、県議会での政策議論に結びつかない。
- 地元議員だけだと、地域のことしか議論できない。また言いにくい場合もある。



【理由】

- 29市町議会単位の交流だと、地域の要求・要望が中心になってしまう。

【意見提案】

- 市町議会と地元県議会議員との交流については、市町議会側がそうした場を設けていく必要がある。

県議会に対する期待・要望

- 医療、福祉、教育などの暮らしのセーフティネットの構築について、市町を補完する県の役割を發揮してほしい。(県立病院だけの議論では不足)
- 広域的課題を共同で議論すべき。(過疎、地域振興、鳥獣害、病院など)
- 地域課題にかかる要望事項への対応と説明をしてほしい。

県議会の議会改革に対する認識

- 二元代表制を意識した知事との権力争いでしかない
- 地域や県民にメリットのある改革が必要
- 県議会の改革内容を知らない
- 議員の定数や報酬を削減すべきである

- 今後さらに議論すべき主要課題
- ① 広域自治体議会の役割
 - ② 市町議会との交流・連携の在り方
 - ③ 「開かれた議会」の効果的な取組方策
 - ④ 「会期等の見直し」によるバランスの取れた議会活動の在り方
 - ⑤ 議員間討議の充実と議員の資質向上
 - ⑥ 議会活動、会派活動、議員活動の役割と関係の整理